取て、北面に渡す、左の北面二三階のぼりて請取て、左義長の中へ入置て、本の座に居す、次に下座の藏人立て、御前の燭を取て、又北面に渡す、右座の北面階を上て請取て、せんのう○原書倭書、仙洞牛飼童也、に渡す、請取て御左義長をほこらす也、事終て左義長の竹二三本計切て、右の御硯ぶたにのせ上る、北面より藏人に渡す、藏人より簾中内侍へ渡す也、此時内侍てい、はつき袴びんふく也、

〔禁中年中行事正月〕十五日　吉書左義長　山科家ヨリ調進　於清涼殿東御庭有之、極蔔催、修理職勤之、仙納彌市伺候、

〔禁中恒例年中行事正月〕十五日　三毬打　又爆竹　又左義長

是は十五日の夜、清涼殿東向簾中出御にて、東庭にて御吉書を三毬打に而燒るゝ御規式なり、長橋廊下に而公卿殿上人列座有、三毬打は竹と藁にて作り、紙をゑめに附たるもの也、山科家御料御代官を勤られたる時よりの例にて、山科家より調進なり、出御の後、御吉書を硯蓋に載、簾中より出さる、藏人受取、殿上より修理職に渡す、修理職狩衣にて受取、三毬打の内江入、次藏人御前の燭臺の蠟燭をとり、修理職に渡す、修理職受取、牛飼童にわたす、牛飼童兩人裝束に而詰居り受取、三毬打江火をうつし、燭は修理職江返し、修理職より藏人江返し、藏人元の如く燭臺に指す、三毬打燃上れば、牛飼童とうどやとはやし、夫より仕丁大せい十德を著、扇を手に持、三毬打をめぐりて、とうどやとはやす、其内新參の仕丁は、紅白粉を面にぬり出る也、三毬打燒る内、燒竹二本硯蓋にのせ、牛飼童修理職江わたし、修理職階下より上げ、藏人受取、簾中江入る、三毬打はて入御なり、

〔日次紀事一正月〕十五日　左義長今曉山科家所獻之左義長、爆主上御吉書、修理職從其事、極蔔右手持燭、左手捧載御吉書之硯蓋上自殿上賜修理職、仕丁等各出庭上拍之、倭俗擊手或鐘鼓勸之、總謂拍、中華除夜或元夕爲爆竹、

〔諸國會圖〕年中行事大成一正月〕十五日爆竹幷吉書揚○中略

今日山科家より獻ずる所の左義長、主上の御吉書を爆す、修理職其事に從ふ、極蔔右の手に燭を持し、左の手に御吉書を載る硯の蓋をさゝ